# 令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号　219　　江戸川区立瑞江中学校

| 「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差 | | | |
|---|---|---|---|
| 学年 | 第3学年 | | |
| 年度 | 国語 | 数学 | 合計 |
| 令和12年度の目標 | | | |
| 令和11年度の目標 | | | |
| 令和10年度の目標 | | | |
| 令和9年度の目標 | | | |
| 令和8年度の目標 | 0 | 0 | 0 |
| 令和7年度の結果 | -1 | -1 | -2 |
| 令和6年度の結果 | -2 | -4 | -6 |
| 令和5年度の結果 | -12 | -11 | -23 |

| 「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学年 | 第1学年 | | | 第2学年 | | |
| 年度 | 国語 | 数学 | 英語 | 国語 | 数学 | 英語 |
| 令和12年度の目標 | | | | | | |
| 令和11年度の目標 | | | | | | |
| 令和10年度の目標 | | | | | | |
| 令和9年度の目標 | | | | | | |
| 令和8年度の目標 | +3 | +3 | +3 | +3 | +8 | +5 |
| 令和7年度の結果 | +0.1 | +7.0 | +5.1 | -0.1 | +8.0 | +3.4 |
| 令和6年度の結果 | -4.3 | -0.9 | -2.3 | +0.2 | +4.8 | +5.3 |
| 令和5年度の結果 | | | | | | |

| 年度 | 令和7年度 | 令和８年度 | |
|---|---|---|---|
| 内容 | 成果と課題 | 目標 | 目標達成に向けた取組 |
| 学校全体 | 【成果】<br>昨年度は、学力向上に向けた取組の結果、全国学力調査では都平均との差が縮まり、合計で-2点まで改善することができた。基礎的・基本的な学力の定着が着実に進んだ点が成果である。<br>【課題】<br>依然として都平均を下回っている状況にあるため、学力のさらなる底上げが必要である。特に、基礎・基本の一層の定着とともに、応用力の育成を図ることが課題である。 | 学校全体の目標は「全学年・全教科において都平均との差を0以上とし、安定的に都平均を上回る状態を実現すること」とする。あわせて、学力層の二極化を防ぎ、D層の縮減とAB・C層の伸長を図ることで、全体としてバランスの取れた学力向上を目指す。 | 教員の指導力向上、基礎学力の保障、学習習慣の確立を柱とし、組織的に学力向上に取り組む。ねらいを明確にした授業づくりや授業公開、ICTの活用等を通して授業改善を図るとともに、家庭学習や放課後学習教室の充実により基礎・基本の定着を図る。あわせて、個に応じた指導を充実させ、すべての生徒の学力向上を目指す。 |
| 第1学年 | 【成果】<br>家庭学習ノートの活用や定期的な声掛け、ドリルパークを活用したチャレンジウィークの設定など、学習習慣の定着を意識した取組を継続的に行った。その結果、生徒の家庭学習への意識が高まり、主体的に学習に取り組む姿勢が見られるようになった。また、基礎的・基本的な内容の定着が進み、学力調査においては全国平均を上回る成果を上げることができた。<br>【課題】<br>全国平均を上回る結果を得ることができた一方で、学力層に偏りが見られる点が課題である。上位層にあたるAB層の割合は増加しているものの、基礎的な内容の定着が不十分なD層の生徒も依然として多く見られる。学力の二極化が進んでいる状況にあるため、今後はD層への個に応じた支援を充実させ、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、全体の底上げにつなげていく必要がある。 | 第1学年は、全教科で全国平均を上回っているものの、教科間で差が見られ、特に数学・英語の上振れに対して国語は相対的に小さな伸びにとどまっている。また、学力層ではD層の割合が依然として一定数存在していることから、学力の底上げと安定化が課題である。<br><br>以上を踏まえ、今後は基礎・基本の確実な定着を一層図り、学力のばらつきを抑えながら全体の安定した向上を目指す。そのため、第1学年の目標は「全教科において全国平均との差を＋3以上とし、特に国語の底上げを図りつつ学力層の均質化を進めること」とする。 | 家庭学習ノート（１日１ページ以上）の取組を中心に、定期的な声掛けを行い、学習習慣の早期定着を図る。また、ドリルパークを活用したチャレンジウィークを計画的に設定し、基礎的・基本的な内容の反復学習を充実させることで、確実な知識・技能の定着を目指す。<br><br>さらに、放課後学習教室やICT教材（ミライシード等）を活用し、生徒一人ひとりの理解度に応じた学習支援を行う。特に、D層の生徒に対しては、基礎・基本に立ち返った個別指導や課題の精選を行い、つまずきの解消を図る。一方で、AB層の生徒には発展的な課題を提示し、学習意欲の向上とさらなる学力の伸長を図るなど、学力層に応じた指導の充実に努める。 |
| 第2学年 | 【成果】<br>数学においては、学力向上に向けた取組の成果により、昨年度よりも全国平均を大きく上回る結果を得ることができた。また、各教科においてAB層およびC層の割合が増加し、D層が減少していることから、全体として学力の底上げが着実に進んでいると考えられる。基礎的・基本的な内容の定着が進み、学習の成果が表れてきている点が成果である。<br>【課題】<br>一方で、国語および英語においては、昨年度と比較して全国平均との差が縮まらず、むしろ低下が見られる状況である。教科間で学力の伸びに差が生じており、指導内容や学習状況に課題があると考えられる。今後は、国語・英語における基礎的・基本的な内容の定着を一層図るとともに、言語活動の充実や継続的な指導の工夫を通して、学力の回復と安定した向上につなげていく必要がある。 | 第2学年は、数学において全国平均を大きく上回る成果が見られる一方で、国語はやや下回り、英語は大きく上回るなど、教科間の差が大きいことが課題である。また、AB・C層の増加とD層の減少は見られるものの、国語の低迷が全体の安定した学力向上を妨げている。<br><br>このため、今後は特に国語の基礎的読解力の強化と、教科横断的な言語活動の充実を図る必要がある。以上を踏まえ、第2学年の目標は「国語を＋3以上、数学を＋8以上、英語を＋5以上とし、教科間のばらつきを縮小しながら全体として安定的に全国平均を上回る状態を維持・向上させること」とする。 | 数学での成果を踏まえ、基礎・基本の定着を重視した指導を継続するとともに、その指導方法を他教科にも広げていく。一方で、国語・英語においては学力の低下が見られることから、語彙力や読解力、基礎的な文法事項の定着に重点を置いた指導の充実を図る。<br><br>また、少人数授業（数学・英語）や机間指導の充実により、生徒の理解状況を的確に把握し、個に応じた支援を行う。加えて、ドリルパークやミライシード、L-gate等のICT教材を活用し、個別最適な学びを推進するとともに、放課後学習教室の活用を通して学習内容の補充・定着を図る。<br><br>さらに、AB層・C層の伸長を図りつつ、D層の減少につながっている現状を踏まえ、引き続き学力の底上げとともに、教科間のばらつきの解消を目指した指導の工夫を進める。 |
| 第3学年 | 【成果】<br>学力向上に向けた継続的な取組の結果、都平均との差が着実に縮まり、-2点まで改善することができた。基礎的・基本的な内容の定着が進むとともに、これまでの指導の積み重ねにより、生徒の学習に対する意識の向上も見られる。全体として、学力の底上げが図られてきている点が成果である。<br>【課題】<br>依然として都平均を下回っている状況にあり、十分な水準に到達しているとは言えない。基礎的・基本的な内容の定着に加え、思考力・判断力・表現力といった応用的な力の育成にも課題が残っている。今後は、個に応じた指導の充実を図るとともに、これまでの取組を一層発展させ、学力のさらなる向上につなげていく必要がある。 | 第3学年は、これまでの取組により都平均との差が-2点まで縮小しているものの、依然として都平均を下回っている状況にある。基礎・基本の定着には一定の改善が見られる一方で、応用力や記述力に課題が残っており、学力の最終的な底上げが必要な段階である。<br><br>そのため、今後は総復習を通じた基礎学力の確実な定着とともに、思考力・判断力・表現力の育成を重点的に進める必要がある。以上を踏まえ、第3学年の目標は「全教科において都平均との差を0以上とし、卒業時点で確実に都平均を上回る学力水準を達成すること」とする。 | 都平均との差の縮小という成果を踏まえ、基礎的・基本的な内容の総復習を計画的に進め、確実な定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を育成する授業の充実を図る。特に、問題解決的な学習や記述を伴う課題に取り組ませることで、応用的な力の向上を目指す。<br><br>また、放課後学習教室や家庭学習の充実を通して、個々の学力に応じた指導を強化する。D層の生徒に対しては基礎内容の反復と個別支援を徹底し、学力の底上げを図るとともに、AB層の生徒には発展的な課題に取り組ませることで、全体の学力向上を目指す。<br><br>さらに、ICTの活用や個別最適な学びの推進により、生徒一人ひとりの課題に応じた指導を充実させ、都平均到達およびその上位を目指した学力の伸長を図る。 |